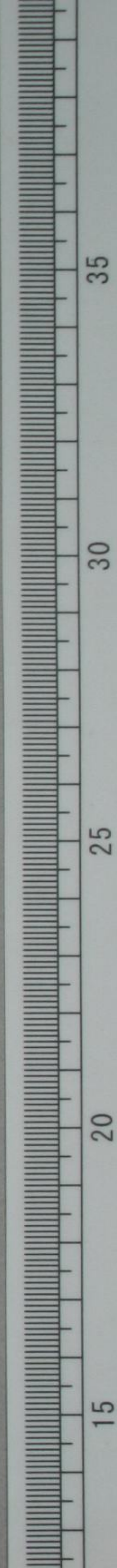




割度通

十

113
697
9



413
697
9

制度通考之十目錄

中川總阜家藏

伊藤長胤輯

天正十五年二月
花房仙文館寄贈

一 錢貨ノ夏

一 尺度之夏

一 斗斛之夏

一 權衡ノ夏

一 端足屯絢之夏

一 姓氏之夏

一 名字ノ夏

計七條

制度通考之十

伊藤長胤輯

△錢貨之有夏

○史記平準書云。虞夏之幣。金為三寸。上。賈逵カ國語ノ註ニ。黃金ヲ上幣トシ。銅錢ヲ下幣トスト云リ。管子ニ。夏商世珠玉ヲ上幣トシ。黃金ヲ中幣トシ。カ布ヲ下幣トスト。然レモ上代ノナレハソク法々ニカナラス。漢書食貨志ニ。太公為周立九府圜法。錢圜而方。輕重以銖。トイフ。是錢ハニリテリ。荀悅東觀漢紀云。錢者文外。

團圞方ト云リ。其後周ノ景王大錢ヲ鑄ル。國語ニ見テ
 リ漢志ニシテ文ヲ寶^寶トイヘリ。然レトモ其說ヨリカメテ文刀
 布ト云トアリ。カハノ形コトク布ハカニニ長ク何モ長
 サニ三寸アリ。イニシヨリモコレアリ。漢ノ玉斧カ取ニ多ク
 シラ鑄ル是ヲ契カト云。日錢ノコトクニ使用ル幣ナリ。其
 圖洪遵泉志。三ノ圖會等。二具ナリ。

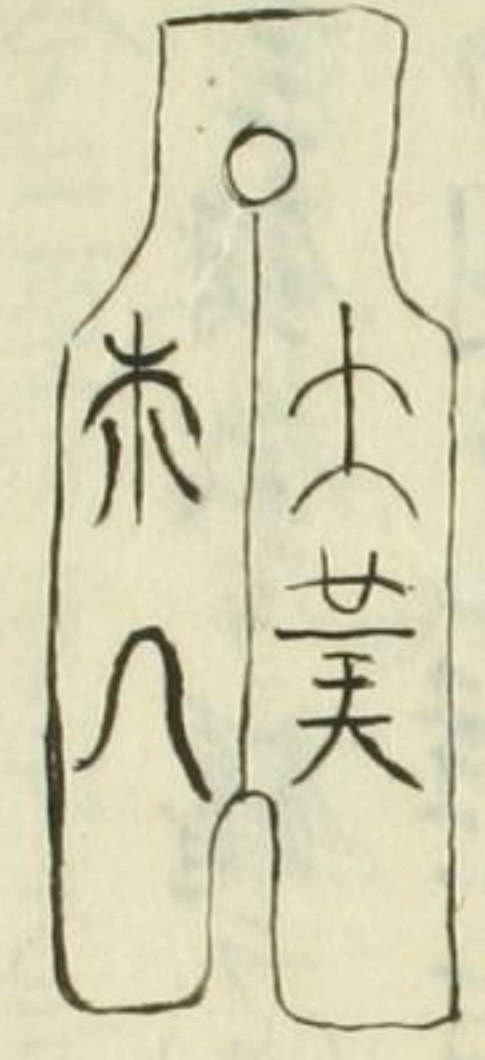
契刀 契^知 五匹

漢刀 一ロク 平五午

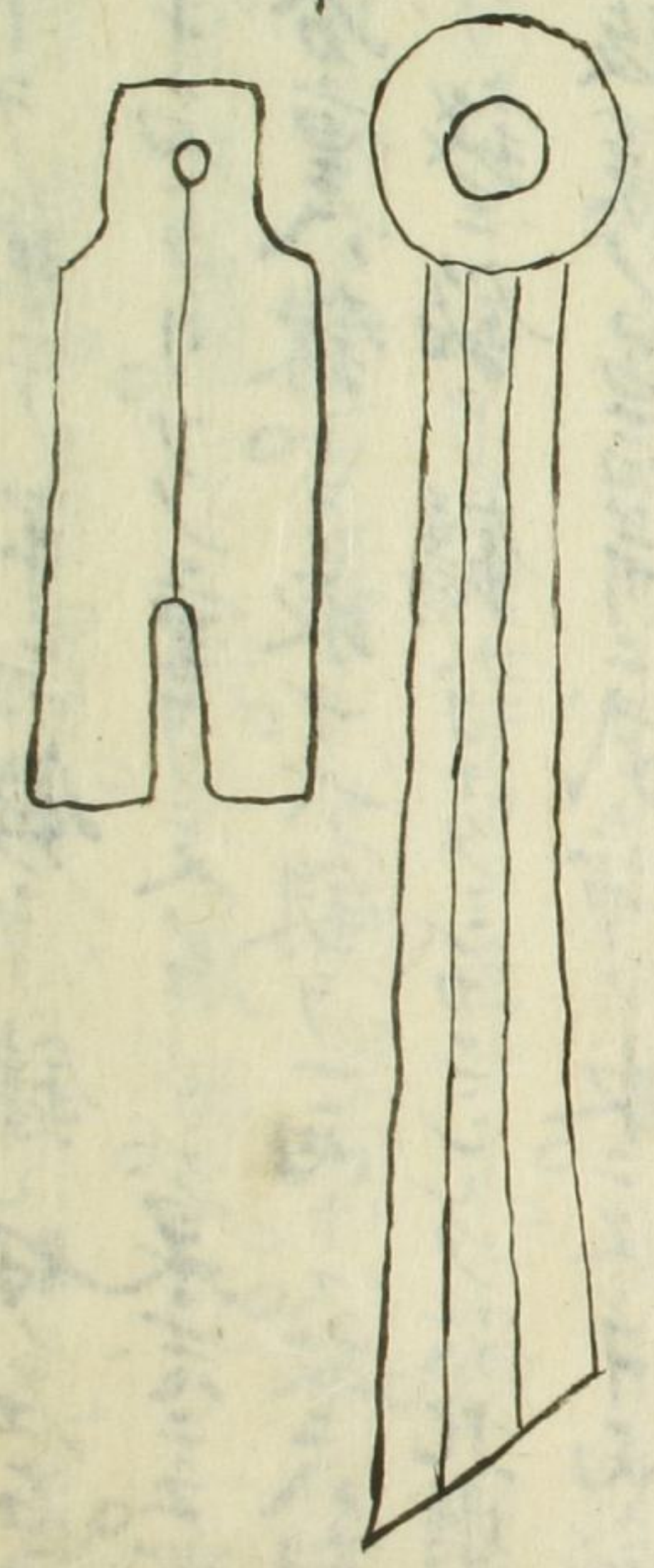
貨布



大黃布カ



古刀布



○秦天下ヲ兼テ半兩錢ヲ鑄ル。好ノ左右ニ篆
字ニテ半兩アリ。ソノ重ヲ一匁トシ。泉志ニ云。此錢
輕寸三分重八銖。ト云。取十六銖ヲ一兩トス。故ニ八銖ニテ
半兩アリ。錢ニ銘ヲ鑄ルコトタシカニシテ。此時ヲハシ
メテ。其後漢ノ呂后并ニ武帝ノ取。又半兩錢タイ
ラン。

○武帝マタ三銖錢ヲ鑄ラン。又元狩五年ニ半兩錢能
テ五銖錢ヲ用ラン。徑一寸重リ五銖。又ニ五銖ト云。
其後後漢ノ光武靈帝及ニ國南北朝隋ハシメ
ニテ。世ニ五銖ヲ鑄。ソノ呂同シカラス。又ニ銖錢四銖

錢アリ。

南宋ノ世祖考建元年ニ四銖錢ヲ鑄ル。百ニ孝
建ノ字背文ニ四銖ノ字アリ。年号ヲ錢文ニ鑄
ル。是ヲ始トス。北魏ニ治鑄相繼クヨリテ多ク
世ニ行ル。今ニ至リテモタシカニ殘レリ。錢背ノ甲
痕ノ古也。世ニ楊貴妃カハアト云ハヤリナリ。開
元ハ玄宗ノ年号トオモヒテカク云ナリ。文德白皇后
ノハ痕アリ。又本ニク考レハ文德白皇后ハ其取崩
ニ玉ヘリ。其後肅宗ノ時。乾泉寶。乾元重
寶。德宗ノ建中通寶。代宗ノ大曆元寶。欽

宋咸通玄寶。何七年号ニ配ニテ名ヲ立タ
リ。其ノリ開元ニ準ニテ大小ヤ同カラス。

本朝之制幣有三等金為上幣銀為中幣
銅為下幣凡鑄錢有輪郭肉好大小畧如
開元錢面有文或配紀元或命養號。

本朝銀アルハ天武天皇ノ二年三月對馬
ノ国司忍ノ海造大田當国ヨリ銀出ルヲ
奏聞ニテ銀ヲ貢上ス。是ニ由テ大田ニ小錦
下云位ヲ授ラル。國史云凡銀在倭國初
出ニ此時下同三年夏四月朔ニ詔曰自

今以後必用銅錢莫用銀錢又詔曰用銀
莫止。本朝ニ銀錢銅錢ヲ用ルコト國中ニ
ラハルハ是ヲ始トス。ソノ輪郭肉好ノ詳ナラス
輪郭ハ錢ノフナリ。肉ハ錢ノ休ナリ。好ハ錢ノ
アナリ漢晉律歷志ニ注云。体為肉孔為好ト。

○持統天皇ノ八年三月ニ直廣ニ位ノ名大宅
臣麻呂勤大ニ位ノ名。甚至ハ心寸八寸書
ノ連本實等ヲ鑄錢司ニ任セラ。鑄錢司ハ
コレニカスル

元明天皇ノ取武藏國秩父郡ヨリ自然ノ和銅ヲ

蘇大。是ニ因テ元ヲ改テ和銅元年トス。其年二月ニ催
鑄錢司ヲ置テ治北ノ三宅麻呂ヲ以テコレ任ス。昔
ニ始テ銀錢ヲ行ヒ六月ニ始テ銅錢ヲ行ス。和銅ト云孰
一銅ノ一ナリ。和銅ノ一ナリ。和銅開珍ノ錢ヲ取テ鑄玉ヲ
ナリ。然レ臣國史ニ具事見レズ。錢ニ年号ヲ銘スル一本
朝ニテ此取ヲ始トス。泉志日本錢四品ノ内ヲ錢ヲ第
一トス。徑寸重五銖ト云リ。

○和銅開珍

和銅二年三月制凡之關雜物其物價銀錢四
文已上即用銀錢。其價三文已下皆用銅錢。上三年

八月銀錢ヲ廢シテ一ニ銅錢ヲ行ハシム

○聖武天皇。天平二十一年二月陸奥國守從五位
上百濟王敬福始テ貢テ苗ハ金奉幣以生
畿内七道諸社ト此 本朝金ヲ用テ始
リナリ。

○淡路亮帝天平寶字四年正月ニ金銀
銅三貨ナノ錢ヲ鑄ラル。コノ取私鑄ルモノ多
キニヨリテ急ニ禁斷セラルテハ騷擾アラニコト
ヲ恐ル。新錢ヲ鑄テ旧ト並ヒ行ヒ。民ニ損ナク
國ニ益アラシメニト。詔書ノ旨國史ニ詳カナリ。

金、錢ノ文ヲ開基勝宝ト云。銀、錢ノ文ヲ太
 平元宝ト云。銅、錢ノ文ヲ萬年通寶ト云。ソ
 ノ通用ノ法。金、錢壹文ハ銀、錢十文ニアタル。
 銀、錢壹文ハ銅、錢十文ニアタル。

○開基勝宝。

○太平元宝。

○萬年通宝。

稱徳天皇。天平神護元年。神功錢
 ヲ鑄ラル。因史云。九月丁酉。更鑄新錢。文
 曰神功開宝。与前新錢並二行於世。

大和五銖永安五銖アリ。何モ年号ナリ。



○唐ノ世ニ成リテ。高祖ノ武徳四年。開元通寶
 ノ錢ヲ鑄ラル。径ハ八分。重サニ銖四。參十錢ヲ
 積テ。重サ一兩ナリ。古來ノ錢ノ中ニテ。輕重太

少中ヲ得其文八分。篆隸。三体アリ。舊唐書ノ食貨志ニ云。開元錢。歐陽詢制詞。其詞先上後下。次左後右。讀之自上及左。廻環讀之。其義亦通。俗謂之開通元寶錢。下。錢ニ通。寶ト云コトコレニ始ル。コレヲ開元通寶トヨミテモ。開通元寶トヨミテモ。二様ニヨミテ通スルヤウニ制セリ。唐三百年ノ間時ニ改鑄ルコトアレトモ。コノ錢ハカラス。○神功開宝。

○醍醐天皇延喜十五年十一月八月二。隆

平錢ヲ鑄ル。弘仁八年三月二十二。年通用ス。

○隆平永寶。

○仁明天皇承和二年二月五日二。承和錢ヲ鑄ル。同十四年三月十三年ノ間通用ス。

○承和昌寶。

○仁明天皇嘉祥元年九月二。長年錢ヲ鑄ル。詔曰。文曰長年太宝一以當旧之十一。新之与旧並用。雅行將令用而不倦。既富而教之トアリ。拾芥ニ長年永宝ニ作ル。

天保二年三月八年行フト云リ。長平ノ字ハアマリ
ナルニ。

○長平大宝。

○長平永寶。

○清和天皇。貞觀元年。四月廿八日。饒益錢ヲ鑄
ル。同十一年ヲテ通用ス。

○饒益神寶。

○同十二年正月。貞觀錢ヲ鑄ル。寬平元年ヲテ
八年通用ス。

○貞觀永寶。

宇多天皇。寬平二年。五月ニ寬平錢ヲ鑄ル。延喜六
年ヲテ十七年通用ス。

○寬平永寶。

○醍醐天皇。延喜七年。十一月三日。延喜錢ヲ鑄
ル。天徳元年ヲテ三十四年通用ス。

○延喜通寶。

○朱雀天皇。天徳二年。三月廿五日。乾元錢
ヲ鑄ル。應和三年七月五日ヲテ通用ス。

○乾元大寶。

○拾芥。錢貨ノコトヲスル。天徳中ニイル。乾元

錢マテニテソレヨリ以後ノコトニヘス。

又按。顯宗天皇ノ二年。是時天下安平。民無徭役。歲比登稔。百姓殷富。稻解銀錢一文トアリ。顯宗天皇ハ人王二十三代メニ。中国南北朝ノ宋武帝ノ取ニアタル。時ニ既ニ銀ヲ用ヒ錢ヲ鑄ルニアリト見ヘタリ。錢ノ初ヲ載セサルハ史之闕文又。本朝ニ銀アル。天武天皇ノ世ニ始トムト相違セリ。ニカレハ此以前ニ金銀ヲ宝トシ鑄ルコト年久ニキコトナルヘシ。本朝ニ銀ヲ用ヒ錢ヲ鑄ル

フコレヨリ前ニモアリ。又コノ取ノ錢ノ又國史紀サス。何レモ史ノ闕文ナリ。下コレヲ詳カニス。○乾元大寶見。

元世祖。至元十四年。丁丑日本遣商人持金來易銅錢許之。元史ニ見ヘタリ。本朝ニテハ後宇多院。建治三年ニアタル。北条時宗執權ノ取コトナリ。又明ノ英宗ノ天順八年。甲申。本朝ニテハ後花園院。寬正五年ナリ。禮部へ次口スル書簡ニ云。書籍銅錢仰之上。國其未久矣。今求ニ物依希奏達以滿。

取欲書目見于左方永樂年間多給銅錢近無此舉故公庫索然何以利民欽待周急又憲宗成化十九年癸卯本朝正德後土御門院文明十五年十有禮部へ遣入洛文二云。柳幣邑久承焚蕩之餘銅錢掃地而盡。官庫空虛何以利民。今差使者入朝所未在此耳。聖恩廣大願得壹拾萬貫以滿其所求則賜莫大焉。是ハハツレモ慈昭院義政公ノ取ノ古又ナリ。大抵先王ノ盛盛ナク取分ハ鑄錢ノ舉世世言

レアリ中世コソカタヨリ。因喪乱ニオチイリテ干戈古又ニケク錢幣ヲト亦取行ハレ又。故ニ元明へ請ニ國用ヲツクナラコトオシルヘシ。其夏目ハニ善鄰國宝記ニアリ可考。五代ノ開錢貨ノコト甚カクルヘシ。周ノ世宋ノ顯德中ニ久シク錢ヲ鑄ルヲ以テ法物軍器寺觀ノ鐘磬等寺外。民間ノ銅器佛像ヲ取アケテコトクク錢ヲ鑄ルニム。其文ヲ周元通宝ト云。侍臣或ハ佛像ヲ毀ルヲ疑フ。世宗ノ云。佛以善道化人苟志於善斯奉佛

矣。彼銅像豈亟謂佛耶。且吾聞佛志在利人。雖頭目猶捨。以布施。若朕身可以濟民。亦非亟惜也。先儒之稱。宋の公マノ錢ノ文ヲ。宋元通宝ト云。太宗己未年号ヲ改元コト。必ス錢ヲ鑄。當時ノ年号ヲ以テ銘トシ。通宝或ハ元宝ト云。淳化通宝ハ真草行三體共ニ太宋ノ宸筆ナリ。

○仁宋宝元ノ時。錢ヲ鑄ラル。ソノ文宝元元宝ト云ヘニ。文字ニ復スルニヨリテ。字士ニ詔

ニテ議セシム。曰テ。曲豆。濟元。宝トイハニ申ス。仁宗特ニ命ニテ。皇宋通宝ヲ以テ号ス。コレヨリ後。又年号ヲ用ヒ。後世ニ及テモ其通ナリ。○宋朝ノ錢大小五等アリ。仁宗ノ時ニ軍起リ。用度タラサルニヨリテ。陝西都轉運使張奎。知永興軍。范雍。雍カ請ラシテ。大銅錢ヲ鑄ル。一ヲ以テ小錢十文ニ當テ。関中ノ軍用ヲ助ク。其時又當五。當三。折二錢アリ。小錢ヲアワセテ五等ナリ。當五ハ一文五文ニアタル。當三ハ三文ニアタル。折二ハ二文ニアタル。

小錢ハ開元様ノコトキ常ノ錢ナリ。今又ル
トコロ熙寧通宝元豊通宝等是ナリ。折
ト么ハ物ニカユルコト。大ナルモノヲ小ニトリ直三。又
他ノ物ヲ以テカニスルコトヲ么。折博折當下
連用ス。ナラニ知行ヲ折、俸折、支米ト么。銀
ヲオサメノ年工員ヲ折稅ト么。折二下

么ハ一文ヲ以テ二文ニカユルニヨリテ。是ヲ折二
錢ト么。又折二下么モ同ニキフナリ。コノ古文字
書ニモアラワサス。然レハ小錢ハ代々定リテ
铸ラルレ也。折二以上ノ錢ハ時ニヨリテ行レ

定リテ鑄ラルコトニアラス。

宋五等錢圖

- 當十。
- 當五。
- 當三。
- 折二。
- 小錢。

錢ニ者。隋ヲ用テ了。南朝比ヨリハ三マヒリ。梁
武帝ノ末ニ銅錢ヲ罷テ更ニ鐵錢ヲ鑄
ラル。是ニヨリテ鐵錢得ヤス。多私錢ヲ去
大同以後鐵錢愈多クニテ。物價騰貴

セリ。東錢八十八ヲ陌トシ。西錢八十七ヲ百トシ。京師八九十ヲ百トシテ。是ヲ長錢ト云。其後詔有テ通ニテ足陌ヲ用ヒラレタシ。人ニ交ス。末年二六三十五文ヲ以テ百トセリ。是ヨリ後隋ノ世唐ノ全盛ノ此古又キコエス。憲宋ノ世二十リテ。錢スクナキヲ以テ飛錢ト云。與元和四年ヨリ京師通用ノ錢每緡ニ二十ヲ少ク穆宗ノ世ニ至リテ京ニテ金銀ヲヒサクニ七十兩二兩ヲ塾ス。宋監ヲ買ニ六百錢ニ七八ヲ塾。内外ノ通用遂ニ八十ヲ以テ百ト

ス。唐ノ末昭宗ノ時代ニハ。京ニテ八十五ヲ百トス。是ヲ塾陌ト云。其後五代唐ノ時ニハ。八十ヲ百トス。是ヲ短陌短錢ト云。漢ノ隱帝ノ取ニハ。八九モノ八十出ルモノ七十七。是ヲ省陌ト云。宋ノ世モ國初ニハ五代ノ制ニヨリ八十又ハ八十五ヲ百トシ。又四十八錢ヲ百トル古又アリ。太祖ノ乾德五年ヨリ。七十七文ヲ以テ百トス。省陌ヲ又除陌トモ。折百ト云。

○遼金元ノ世。取々錢ヲ鑄ル。前代ト同シ。金元ノ取ヨリ交鈔ヲ造。サテ國用ヲ濟ス。ソノ法

サテく変更ニ。夏且鍛系瓊十六逐一紀スルニ
及父。續文獻通考ニ詳カナリ。交鈔ハ札
遣ノフナリ其大畧各下ニ之ヲ詳カニス。
明ノ太祖ノ初。未タ國号ヲ立ラレサル先。吳王ト
稱ス。是取ニ大中通宝ヲ鑄ル。是ハ錢ノ銘ニ
テ年号ニアラス。今ノ世ニモ偶此錢アリ。誤リ
テ唐ノ大中年中ノ錢ト云リ。

○洪武已來。代々錢ヲ鑄ラル。何モモ年号
ヲ以テ銘トス。小錢ヨリ當十錢マテスヘテ五
等アリ。會典云令戸部及各行省鑄洪

武通宝錢。其制凡五等。當十錢重二兩
當五錢重五錢。當三當二重皆如所當之
數。小錢重一錢。

又洪武二十二年ニ命アリテ錢ヲ鑄ラレ。銅一
斤ヲ小錢十レ八百六十。折ニテ六八十。當三十一ハ
五十四。當五十一ハ三十二。當十十六ハ六ヲ鑄ルト
云リ。ソカニ八百六十目ヲ壹斤トシテ。小錢ノ重
サ一錢タルコト知ヘシ。今ノ世ニ行ル。洪武永樂
等ノ錢ハ皆小錢ナリ。

○又成化十七年ノ令ニ。洪武永樂宣德ノ旧

錢每錢八文折銀一分八十文折銀一錢ト
リ。嘉靖ノ比ニ六。舊錢每百四十文准銀一銀
ト云リ。隆慶元年ノ令モ又成化ト同キヲ云
國朝制錢及先代舊錢每八文折銀一
分。不許任意低昂ト云リ。何モ會典ニ詳
カナリ。是ニテ明朝銀ト錢トノ準價大様
ニ云ヘシ。前代ノトク折百除百トキコヘス。
清ノ蔡九霞名方版廣治平畧云。宗禎之
季私鑄成。行莫之能禁。錢百文價
銀二分。取以錢日鑄而國用日匱也。會

典等ノ書曰。ヨリテ見レハ嘉靖ノ比ニ六十四文
ヲ分トシ。隆慶ノ比ニ八八文ヲ一分トシ。元二。明
ノ末ニ六五十分トシ。元ト見ヘタリ。偽錢
多キニヨリテ其價ノヤニキナリ。

○明ノ取制錢ト云ハ。取ノ官錢ヲ云。嘉靖十
五年。御史閻隣等言。朝廷所用錢幣
有二。一曰制錢。如祖宗列聖及皇上所鑄。漢水嘉
靖等通宝。是ナリ。次曰舊錢。歷代一似鑄。如開元祥
符。太平。淳化等錢。是也。是又治平畧ニ云
ラハル。

○又實錄ト云コトアリ。是ハ近代ハ元札遣ノ
コトナリ。其ハシメ唐ノ比ヨリオコリテ。元明ノ收盛
ナリ。初唐憲宗ノ時ニ錢少キヲ以テ商賈人
京師ニ至リテ諸國ノ進奏院ニ錢ヲワタシ
テ。其手形ヲ以テ國々へ往テ錢ヲ受取ル。是ヲ
飛錢ト云。今ノ所謂カセト云法ト云。文獻
通考云。憲宗以錢少復禁用銅幣。取
商佑至京師。奉錢諸路進奏院及諸
便富家以輕裝趨四方。合券乃取之。号
飛錢云。是ナリ。進奏院ハ諸國ノ守

護ノ京ヤニキナリ。其後宋ノ太祖ノ取ニモ。此
故也。又ニヨリテ錢ヲ京師ニ入テ諸州ニ便換
スルヲユルサ也。

又蜀ノ民間ニ手形ニテ交易スルコト有。是
ヲ交子ト云。日本ニテ手形買スト云カコト。其
後公儀ヨリ其役取ヲ置カレ。是ヲ交子務
ト云。通考云。初蜀人以鐵錢重私為害。乃
謂之交子。以便貿易。富人十六戶主之。
其後富人皆稍衰。不克償。所負爭
訟。數起。又曰。置交子務於益州下。是

ナリ。

○徽宗ノ大觀元年。交子ヲ改メテ錢引トス。
交子務ヲ改メテ錢引務ト云。引ト云ハ手形切
手ノ古又ナリ。路引文引ノ引ノコトニ。其後南宋
ニテリテ會子。関子。関會。等ノ名オコリテ。金ノ
世ニ是ヲ交鈔ト云。鈔ノ名是ニオコル。元明已
來。寶鈔ト云。鈔ト云。是ヨリ出タル古又ナリ。
其名ハカハレ。何モ札遣トナリ。朝鮮國ニ
是ヲ楮貨ト云。故攷古又撮要ニ見ヘタリ。
葉子音カ草木子曰。元之鈔法即周漢

之質。削カ唐是錢引。宋之交會。金之交
鈔ト此又其大概ヲ挙ルナリ。交子ニ界ト云コトア
リ。三年ヲ一界トシテ。ニカユルコトナリ。六十五年ヲ
二十二界トス。直宗ノ取。張詠蜀ニ在取ノ法ナ
リ。ソノ後界ノコトサマク通考ニ載セリ。

後世ノ交子。寶鈔。等ノコト。唐ノ世ノ飛錢
ニモトツト久。飛錢ト云フハ。券ヲ以テ錢ヲ
取カヘテ。券ヲ以テ錢トスルニアラス。宋ノ交子。會
子。直ニ錢ノ代リ。此ヲ用ヒテ別ニ錢ヲ取コ
トナシ。丘瓊山。宋ノ交會目ノ古又ヲ論シテ。所

謂直以紙為錢ト是ナリ。

創時宋ノ交子ノ法ニヨリテ。交鈔ヲ作ル。一貫ハヨリ十母貝ニテ。五等是ヲ大鈔ト云。百ヨリ七百ハテ五等是ヲ小鈔ト云。何レモ。七年ヲ切ニシテ取カエ。其後カキリテ置テ。文字クワキモノコレカエ。其式衍義補ニ見ヘタリ。

元ノ世祖ノ收。中統元寶鈔至元寶鈔アリ。寶鈔ノ名コレハニル。宝ト称スルハ尊テ是ヲ称スルニアラス。通寶ノ宝ト取リテ。銭ヲダテ宝鈔ト云ナリ。銀札ヲ銀鈔ト云ニテ知ヘシ。

大抵元ノ收鈔ノ用充盛ナリ。國初二宋金ノ法ニ倣テ行用鈔アリ。世祖中統元年。ハニテ交鈔ヲ作り。絲ヲ以テ本トス。是ヲ絲鈔ト云。銀五十兩ニ絲鈔千兩ヲ易フ。是年又中統元寶鈔ヲ造ル。其文十ヲ以テ計モノ。四百ヲ以テカソフルモノ。三母貝ヲ以テ計フルモノ。一貫コトニ交鈔一兩ニ同シ。二貫三ノ白銀一兩ニ同シ。其後行フコト年久シク。物重ニテ鈔輕ニ。二十四年。ニ至テ改メテ至元寶鈔十一年ヲ送リテ中統鈔ト通ニ行フ。每一貫文

中統鈔五貫文ニ當ル。成宋ノ取。鄭介夫
奏議ニテ鈔法ノ不便ヲ申ス。其後武宗
ノ至大二年ニ至大銀鈔ヲ改造ル。定テ十三
等トス。元ノ鈔法是マテニテスヘテニ度變ス。

○明ノ太祖洪武八年ニ中書省ニ詔ニテ大
明宝鈔ヲ作ラシム。采縹ヲ取テ料トス。其
制法ニシテ。高サ一尺。闊サ六寸ハカリ。青白色ヲ
以テ質トス。外龍文ノ花欄ヲナシ。横ニ其額
ニ題ニテ大明通行寶鈔ト云。欄ノ内ヲ三
方ニシテ上ノ方ニ八等家文八字ヲ書付。大明宝

鈔天下通行ト。兩旁ニコレヲ書ク。中ニ六錢貫
ノ狀ヲナシ。其下ニ八等准行便及偽造告捕
ノ法ヲ具ニス。其品スヘテ六等上鈔壹貫八銅
錢十文。銀一兩ニ折工夫ヨリ以下五百文。四百
文。三百文。貳百文。百文。元。凡六段アリ。十
三省ニ各宝源局ト云。取アリテ。小錢ヲ鑄テ
コレヲ通ス。右ノウケ大明會典ニ並ニ廣治平
間各ニ詳カナリ。考ヘシ。

會典又曰。每鈔四貫易赤金一兩。禁民間
不得以金銀物貨交易ト。又百文以下

則止用銅錢ト。是ニテソカニ金銀銅鈔通用
ノ法大畧ニルヘシ。

金銀銅三幣ノ古。古今ノ變及通ニテ之ヲ考
ル。金ノ一ハ古禹ノ收貢金九牧ト云。左傳
ニ見ヘタリ。禹貢ニ荊州揚州ノ貢。惟金三品
トアリ。易金。矢金。夫ノ象アリ。周禮ニ鈞金。東
矢ノ古又アリ。孟子ニ兼金ノ贈アリ。モウハラ金ヲ
用テ交易ス。銀ノ一ハ書經ノ禹貢。貢ニ著ス
テ。銀鑄。斝。斝トアリ。銅錢ノ一上ニ詳ニ奉ル
通リ。周ノ初太公ノ取ヨリコヒアリ。漢ノ時ニ

黃金一里一介直錢萬。朱提銀二里八兩。爲三
流。直一千五百八十。漢書。食貨志。二見ヘ
タリ。朱提トハ縣ノ名。銀ヲ出ス。ニカレハ其時ニ
ハ銅錢ヲ用ヒテ。金銀ヲ通用スル。ト云ヘス。
通典。通考。大明會典。等ノ書。皆。詳ニ銅
錢ノ古又ヲ載セテ。金銀ノ汝。汝。曾。アラハス。元明
ノ世ニ至テ。又。字。鈔。ハ。ル。是。ニ。カ。レ。テ。金。銀。鈔。ハ。四。モ。ト
其價相通用ス。シカレハ金銀ヲ常ニ使フ。ト云。明ニ
至テ。租稅等一切銀ヲ納ム。是。ニ。カ。レ。テ。銀。ハ。シ。テ。世
重。張。習。孔。カ。雲。右。卧。餘。ニ。云。前。古。之。通用。者。

大率以金銀之見于載籍者始禹貢錢
制始于大公。正是貨財中之一種耳。不常
用也。自漢鑄錢以通百貨數千年来
皆是用錢金銀雖亦行于世然國課物
價不以之為准。至明祖稅權贖一既徵銀
銀始独自重于天下百物皆取銀為準矣。
コノ説ニテ古今貨財ノ變大既ニルヘシ。大
抵中國ハ五金ノ產國ニ合セテハ甚ク之ニ上
世ヨリ秦漢ニテハタ金銀ヲ通用スルヲアル
也。夫ヨリ後ハ只銅錢ハカリヲ用ユト見タリ。

其内漢ノ取ニ。錢ヲ以テ准トニテ。金銀共價
幾銀ト云。明ニハ銀ヲ以テ准トニテ。百物共ニ價
銀幾兩幾錢ト云。古今ノ變及自ラ見ルヘシ。

○漢已来又塩錢ノ稅アリ。昔禹貢ニハ青州
ヨリ塩ヲ貢ス。周禮ニ塩人ト云官アリ。其時コレヲ
以テ國用ヲ資ルヲキカス。齊ノ桓公ノ取管仲カ
策ニヨツテ始テ塩ヲ征ス。征ハ運上ヲトルナリ。
漢ノ世ニ及テ秦ノ法ヲウケ。塩鐵ノ利古ニ二十
倍ス。武帝ノ元狩年中。及テ塩鐵官ヲ置直テ
天下ノ利ヲ収メ。私ニウルモノハ罰アリ。其後或罷

三、或ハ行レテ。唐ノ太宗大歴ノ末ニナリテハ天下ノ
塩稅六百餘中方中。緒中ニテ天下賦稅ノ半ニオルト云
リ。緒トハ錢一貫ノ一ナリ。

○中国ハ土地ヒロキユニ。海遠キ取ヘハ運漕不自
由ナルユニ。塩甚大功ナリ。鐵ノ産モ饒富ナラ
サルニヤユニ。漢已來。塩鐵ヲトサマク。政令ア
リテ。塩鐵論ノ書オコル。ソノ後世ニ茶馬ヲ
政令アリ。是ハ北狄ヨリ馬ヲオクリテ中国ノ
茶ト交易ス。茶馬司アリテ。ソノ古ヌヲオサシ。是モ
サマク。利室ロアルトミヘタリ。ニカルニ因テ。塩鐵

茶馬ノ四ノ古又典籍ノ中多クソノ説アリ。本朝
ニ古ヨリコノセニキナキユニ。中国トハ異同考ヘキ
ヨニナシ。ソレユヘ目錄ヲ立テスタ。錢貨ノ次手
ニコレヲ箸ハスナリ。

△尺度之古又

○舜典ニ云。同律度量衡。曰里衡。ト律ハ十二律ヲ云。度ハ五度ヲ云。スヘテモノサシノクナリ。且里ハ五曰里ヲ云。マ
スノクナリ。衡ハ五權ヲ云。ハカリノ古又ナリ。舜撰
政ノハミ。天下ノ法ヲタシ。第一ニコレヲ改メ玉フ。孟
子曰。舜爲法於天下。可傳於後世。トコレ
其古又ナリ。

○古ハ寸尺ノ法。分寸尺丈引ノ五アリ。是ヲ五度
ト云。漢書律曆志ヲ按スルニ。五度ノツモリ
本。黃鐘ノ律ノ長サヨリオコル。黍。每貝ノ廣

サヲ以テ一分トシテコレヲ十倍ツニシテ尺丈引ノ
 ノリオコル。漢書云。以子穀。柜忝中者。一忝之
 廣一度之九十。黃鐘之長一為二分十分為
 寸。十寸為尺。十尺為丈。十丈為引。而五度
 審矣。其法用銅高一丈。廣二寸。長一丈。而
 分寸尺丈存焉。而作為引。高一分。廣六
 分。長十丈。其法矩。高廣之數。陰陽之
 象也。孟康註曰。子北方。北方黑。謂黑忝
 也。師古曰。此說非也。子穀猶穀。子柜即黑
 忝中者。不大不小也。言取黑忝穀。子大

小中者。率為分寸也。コノ一說同カラス。唐ノ
 制ハ子孟康カ註ニヨリテ。北方ノ忝ヲ用ユ。本
 朝ノ令コレニヨル。今漢書評林ノ本ニ孟康ノ
 註ヲケル。

五度圖

分一忝之廣 寸十分 尺十寸
 丈十尺 引十丈

此外又尋常名アリ。孔安國曰。八尺曰俛。禮祭
 義。二築宮。俛有三尺。莊子。庚桑楚。跂步

仞之丘。註六尺曰步。七尺曰仞。應劭漢書註
五尺六寸曰仞。顏師古非之曰八尺曰仞。小爾雅
四尺曰仞。王肅從之。又云八尺曰尋。尋倍仞。尋常
又云。度。高深以仞。度。長短以尋。尋。度地以步。
ト右トモニ正字通ニ見ヘタリ。尋ハ七ト訓ス。

周尺ノコト禮記王制ノ篇ニアラスル。曰古者以
周尺八尺為步。今以周尺六尺四寸為步。註云。
周尺之數未詳。闡也。或言周尺八寸ト云。
リ。王制ハ漢ノ取ニ作ル。ニカル。ニ周尺ト云ハソ
ノカニノ尺トカハリタルコト知ルヘシ。後世周尺ノ

說サマクアレモ一決ニカタシ。

○家禮丘瓊山儀節ニ周尺ノ圖ヲアラスルニ
テ。此今ノ寶尺六寸四分弱ト云リ。是ニヨリ
テ。神主ヲ制スルモノ。今ノ匠人ノ曲尺ニテ六寸
四分ヲ一尺トタテハツモルコトナリ。ニカレモ家禮ニ
イハユル。寶尺ト云モノ。今ノ曲尺ト長短同ニ
キヤ否。ニルヘカラス。ニカレハタニカニ六寸四分ニキ
父カタシ。

子過子棺七寸。椁稱之。上大全ニ今ノ四寸ト云。
大樣周尺八寸六寸餘ト意得ヘシ。古ヘ幼少

九モヲ五尺童子。六尺之孫ト云。又孟子ニ
曾交曰。交闈湯九尺。文王十尺。今交九尺
四寸。以長トアリ。然六古ノ人ノ勢ハ丈或九
尺。幼少九モノハ五尺六尺ト知ヘシ。大抵宮室
器物ノ類ハ古今ノ間各別。長短モ凡ヘシ
人ノ勢ハアマリ違フハ有リ。今ノ俗ハ成人
ヲ六尺田カト云。古ハ成人ヲ丈夫ト云。丈夫ト云
ニカレ古ノ尺ハ後世ノ六寸余ト云モ大様相
違ハ凡ヘシニキナリ。

律度量衡ノ本。柎悉ヨリ積リイタス。

漢書律歷志ニ出。先儒コレニヨリテ書曰
經舜典ノ本文ヲ注セラル。ニカレハ漢ノ世コノ
ノリト。唐唐六寸トカハル古又ナニト見ヘタリ。然レ
モ三代ヨリ漢ニテ間世々ニカハリ有テソノカニ既ニ
周尺ト云傳ス。漢ノ法ヲ以テ唐唐六ノ古又ヲ
解ニカタル。又唐ノ律並ニ杜氏通典ノ文獻通
考等ニ唐宋ノノリヲ云。何レモ悉ヨリ積リ
出ス。漢ノ律歷志トカワルコトナシ。然ルニ唐
宋ノ尺漢ノノリト又相異アリ。此等ノ古何モ
ウタカフヘキナリ。畢意見法令ニアラス。通

リ定リタルコトニテ。世間通用ノ度ハ世々ニ相異
アルコト尤ヘシ。其故古ヨリモ。律度量衡ヲ同ス
ト。論語ニモ。謹權量ト云。度ノ不同アルコト古
ヨリニカリ。

漢ヨリ以來ノ尺世々ニ異同アリ。隋書曰。周尺
以下梁朝ノ俗間尺ニテ十五等ノ尺ヲ筭テ。晉
前尺ヲ以テ其長短ノ差ヲアラセリ。晉尺ト
云モノ後世知レカクテレハ。モトヨリ證ヲ取カズ。

○漢ノ官尺隋舊唐書曰。度ニハ比。晉尺一尺
三分七釐トアリ。宋ノ仁宗ノ收。二丁度等。漢
志。通典唐六典ニヨリテ。古尺ヲ考フ。漢ノ貨泉
皇サ五銖。徑一寸高若。訖是ニヨリテ。貨泉ノ用
テ一寸トシ。隋書曰。ヨリテ十五種ノ尺ヲ作リテ。コレヲ
上リ大常。寸ニオサム。漢ノ尺ノリ。是ニテ大際
三九ヘシ。

○杜氏通典云。蓋大率如此。其且量度三升。當
今一升今謂秤則三兩。當今一兩尺則一尺二
寸。當今一尺今謂收。右之。又通典。第四卷。食
貨ノ下ニコレヲ筭ク。其前二南北以來ノ古又ヲ
段々ニ考ル。出ニ。サテカクノコトクニイヘリ。唐ノ收ハ

尺前世ヨリ長キコト是ニテ知ヘシ。ゴノ古又々々
下ニ詳カニス。

○隋ノ尺唐ニ較ル五分寸長ニ。通典云。隋制
前代三升當今之升三兩當今一兩一尺二
寸當今一尺前代ト云ハ。隋ノ尺ヲサス。今ト云ハ
杜佑カ取ラサス。唐ノ尺斗量衡共ニ增益
スルコトカクノコトニ。

唐ノ尺ノ度モト々黍ノ子ヨリ積リ出ス。唐
令ノ内雜令ニ云。度以尺黍中者一黍之
廣一為分十分為寸十寸為尺一尺二寸為

大尺一尺十寸為天。令ノ上文ニ北方尺黍トア
リ。是ハ何ニヨリテ北方ノ黍ヲ用ユトナシ。漢書
律歷志ニ子穀尺黍トアリ。師古カ注ナハ
子穀ト云ハ。穀子ト云。テノ古又ナリ。唐ノ尺今ヲ
定メラタル取ニハコレヲ子ノ方ノ穀ト見タルモノ
ナリ。故ニ北方尺黍ト云リ。杜氏通典ニ漢
書ノ文ヲ引テ注ニテ云。子北方也。是ニテ知
ヘシ。

太宗ノ貞觀中ニ。協律郎張文叔カ製造
銅ノ度量衡アリ。杜氏時分ノ常用度量

二校レハ尺當六之五衡皆三之下云リ。通
典ニコレヲ載ス唐ノ初ニ七階ノ取ト同ニコレニヤ。
是又考フヘシ。衡皆ノ字上量ノ字ヲ脱スルカ

唐ノ取度量衡共ニ何レモニ通リアリ。鐘律
冠冕湯藥ヲハカルニハ。何レモ小者ヲ用ユ其餘
官私ノ古又ニハコトクク大ナルモノヲ用ユ。尺黍
尺ノ外ニ三寸ヲニテ一尺ニ寸ノ大尺ヲ用ユ。量
ハ黍量壹斗ノ外ニ三升ヲ增ニテ一斗三升
ノ大斗ヲ用ユ。是ハ文獻通考ニ程大昌カ
演繁路ヲ引テ載スルところカクコトニ

開元九年ノ定メナリ。唐ノ律令ニハ三兩ヲ大
一兩トシ。三斗ヲ太一斗トシ。一尺ニ寸ヲ大一尺ト
ス。其法同シカラス。漢ノ取ニモ斗ニ大小凡コ
ト食貨志ニ見ヘタリ。

本朝之制 九度十分為寸。十寸為尺。一尺
二寸為太尺。一尺十尺為丈。

右度量ノ令ニ載スルところ如此。全ク唐ノ制
ニヨル。義我解云。分者以北方。柜黍中者一之
廣。為分柜者黑黍也。北方柜黍ト云モ
ノ也。漢書律歷志ヨリ出テ。子穀ト云ヲ

子ノ方ノ穀ト云コト。通典ノ説ヨリカク用ヒ
来ルナリ。是ヨリ積リ出ニテ十分ヲ寸トニテ
大ニ至リ大小ニ等アリ。

○五代ノ取王朴カ准尺アリ。宋ノ取ニ和峴景
表尺アリ。又李照カ尺是ヲ大府布帛
尺ト云。阮逸胡瑗カ尺。鄧保信カ尺。大
晟樂尺等六品アリ。律呂新書ニ詳
カナリ。夫ヨリ後明朝ニテ内造營尺
寶鈔尺等アリ。ソノ品古今官民ノ間
サテニテ一決ニカタニ。周尺ノ古又既ニ上ニ

論ス。其後ハ漢唐宋明ノ世當時ノ官尺
ヲ弁スヘシ。大抵衣服器物ハ後世ニテカ
タニ唯古錢ノニ久ニク世ニ存ニ少ク出
入ハ有ヘケレ也。大ニ異ナル古尺ハ
漢ノ一寸ハ貨貝泉ノハ一寸トニ。唐ノ一寸ハ
開元通寶泉ノ錢ノハ八分ト立意得テヨロ
シ。是ヨリ一尺一丈モ準ニ知ヘシ。

△斗解之古又

古八量ノ品命命合升斗解ノ五ツアリ。是ヲ
五量ト云。是モ黃鐘ノ律ヨリオコル。命命ト
ハ音命命ノ字ト通用ニテ。律ノ管ヲ云。世
鐘ノ管ノ中へ黍ノ中九モノ千二百粒ヲ入ル
故ニ其^レ末トノカサヲ一命命ト云。是ニ少^クアケセ
タ^ルルヲ合ト云。漢書曰^ク。命命爲合ト云。是十^リ。
一本六十命命爲谷ト云。是ヨリ以上十倍^ニ三三三
ニ。十合爲升十升爲斗十斗爲斛而五量ノ
ナ^ル。後世ニ至^ル。元。日里目ハ多少^クア^ラ。其各^ノカ^ク

ルノ十三。又孫子ノ算術六六粟ヲ爲釜十釜
爲抄十撮爲勺十夕爲合ト云テ合ノ下ニ夕撮
等ノ名アリ。後世是ニ從テ何句何オト云。是ニ
本ツク。又古ニハ春秋ノ比ニハ豆區釜鐘ノ
量アリ。庾ノ名アリ。秦漢已來モツハラ斗
斛ノ名行レテ。豆區等ノ名キコエス。

○豆區釜鐘ノハ左傳ニ見ヘタリ。四斗ヲ爲豆
テ是ヨリ四倍トニニニテ。斗六升ヲ區トス。四區
ヲ釜トス。釜六斗四升ナリ。釜ヲ十倍ニニテ十
釜爲鐘トス。九寸ハ六斛四斗ナリ。古ノ鐘ノ
粟五方鐘ノ祿トハ。何レモコノ積リナリ。其詳カ
ナリハ左傳ヲ考フヘシ。

五量圖

合 十二百
斗 十升

合 二合
一云十合

升 十合

斛ノ字後世ハ石ノ字ヲ用ユ。日本ニテハ石ヲコク
ト讀メトモ。中国ニテハ其下ハセキノ立目ニテ。斛ノコ
トニ通用ス。又碩ニモ作り石ニモ作ル。然レ石
ハモト權ノ名ニテ。物ノ輕重ヲハカルモノナリ。書

經五子之歌云。閔石和鈞。量目ノ名ニアラ
ス。是ヲ斛ノ古又ニ云ルコト何ノ比ヨリハニルコト
唐ニテモシレカタニ。秦ノ始皇。衡石程書ト
ハ許狀ヲ秤ニテカケルヲ云。一石ノ重サノ古又ナリ。
曰里ノ古又ニアラス。ニカルニ。漢ノ取萬石君ト云ノ
類ハ米粟ノ曰里ノコトナリ。ニカレハコノ取分ヨリ
秤ノ名ヲ曰里ノ名ニ借用ルナルヘシ。想フニ石ノ
重サニアタル粟米ヲ石ト云ヨリ。通用スルト
見ヘタリ。ニカレタタニカニハシリカタニ。

○沈存中筆談ニ云。鈞石之石。五權之名石。
重百二十斤。後人以一斛為一石。自漢已來
如此。飲酒一石不亂。是也。又大學衍義補
云。呂祖謙作太古又記於始皇平六國之初。
書曰一衡石丈尺。而其解題則云。自商君
為政。平斗甬。權衡丈尺。意其所重曰之石。
兆鈞石之石也。後世以斛為石。其始此欵。
○漢取斗斛。少モリ何ホト云ハ。詩カニシリカ
タニ。大抵度量衡。在ニ後世ハ古ヨリ次第ニ
加シ在トリケケ斗斛。少モリ古ハ甚カク。漢ノ
取ノ一升ト云モノ。今日日本ノ一合ホト。キヨク夫略

十分三準スヘシ。漢書食貨志ニ云。食人月
石半五人終歳爲粟九十石ト云々。コレハソ
ノカミ一夫五口ノ家治田百畝粟百五十石ヲ
作り出メ。十カ一ヲ年貢ニ出シ。家内五人ノ扶持
ヲカクコトク少モリタ。九モノナリ。ニカレハ一月二人三
テ一石半ヲ食スレハ。一日二五升少モリナリ。今制
一人一日二五合ヲ食フ。凡テ器物ノ大小布帛巾ノ
長短ハ古今ノ間甚異同アルヘシ。人ノ口食ハ古
ト今トアリ相違ハ有テ三キナリ。今ク人少壯才
ニナラニテ。一日五合ヲ食ス。漢ノ收ニハ五升ヲ

食ス。ニカレハ漢ノ升ハ今ク十分一トニ九ヘシ。カクコ
トキコト委ニク吟味スレハ。却テタカヒヤスニ。口大
体ヲ以テ推考ヘハ大ナル違ハ有テ三キナリ。

○又漢書王莽カ傳ヲ考ル。二。莽カ將嚴尤曰。計一
人ヲ三百日ノ食用。糲十八斛。非牛カ不能勝。牛
又當自齎食。加二十斛。重兵トコレニヨル。寸ハ一
牛ノ載。凡トコロニ十六斛。一人ノ口食。一日二六升十
リ。一人トヘニテ三百日ノ口食。十八斛ヲ三百ニカレ
ハ一月二六升ツナリ。今ク制一人ノ口食。五合^カ準十
スレハ。漢ノ時ノ六升ハ今ク收ノ五合ニ準ス。ニカレ其

時ノ一升ハ斬今ク一合餘ナリ。又今ク一車ニ米
四斛ヲ積ム。漢ノ取三十六斛ヲ載ル取ハ又
十分一ハカリニアタル。詳カナル古又ハ知ヘカ。フスト云
ヘ宅。大様相準スヘシ。

○通鑑ニ諸葛亮罰二十以上皆親覓馬。
所噉食不至數升。司馬懿告人食少莫
煩其能久乎ト云リ。是又證スヘシ。數升ニ
至テラスト云トキハ三四合餘ノ食ナリ。又南宋
書ニ何胤荅庾杲之日吾年五十七月
食四斗米不盡何可復有官情コレヨ

トハ當時ノ量ニテ毎日ノ食一升二三合バカリ
ナリ。當時ノ量ハ大際ニルヘシ。

○漢ヨリコノカタ唐ヨリテ開斗斛ノ分量世々
ニカワリアレ也。隋ノ開皇中ニ古斗三升ヲ以
テ一升トス。大業ノハニメニ古ニ復ス。通典ニヨ
ルハ唐ノ量ハ六朝時代ノ量ヲ三倍スト云リ。
ニカレハ唐ノ取ノ量目ハ今取ノ三分一ヨリウ
チト見ヘタリ。一升々ニ合ニ準スヘシ。宋王應
麟王海ノハ古已衡量ノ下ニ春秋正義
ヲ引テ云。近世以來或輕或重魏齊

斗稱於古二而為一周隋斗稱於古二而為一此等ノ文ニテ其大槩ニルヘシ。

○唐書食貨志ニ玄宗ノ天宝ノ比ヨリ代宗ノ取テ天下ノ戸九百余萬六千三百萬人許ナリ。少壯相均人食米二斗日費公米百二十六方斛ト云リ。今時一人日食五合ノ法ニ準スルハソノカニ一斗ハ今ノ二合半ハカリトキコエ。又唐文粹ニ載ル陸龜蒙家カ詩ノ序ニ余家大小之口二十月費米十斛ト云リ。ニカレハ一人ノ食一月ニ二斛五

斗ナリ。今ノ直里一人日食五合ノソモリナハ二十人一月ニ六三斛ハカリニアタリ。

○唐ノ取ノ直里モ又黍少ヨリツモリ出ス唐令曰云直里ハ以北方秬黍中者容二千二百為一輪。通曲ニ容四ニ作九十鎰為一合十合為一斗十斗為一石三斗為一大斗一斗十斗為一斛ト是ナリ。然レ在漢ノ取直里ト同カラス。是又疑ヘシ。其ウハ斗ニ兩様アリテ大斗小斗アリ。

本朝之制 凡直里六十合為一升。三升為一大升一升十升為一斗。十斗為一斛。

右量ノ一令ニ載ルところ如此。全ク唐ノ制ニヨ
ル。義解云。柜忒中者容二千二百為簋十
簋為合也。是ヨリ積リ出三元十合ヲ升トシ
斗斛ノ数オコリ升ノ大小ニ等アリ。

○宋ノ取ノ量唐トカルル見アタラス。謝氏筆經
曰。斛古一石今ハ五斗。或ニ斗五升ト此又大畧
ノツモリナリ。

宋ノ周密カ。癸辛雜識云。宋ノ取杭城仰
糶而食者凡十六七万人人以二升訂^{カニ}之
非三四千石不可^ニ以支一日之用^下。是又唐之

食化貞志ノツモリト同^三。又泥存中カ筆談云。

米六斗一人食日二升二人食之十八日ニ尽ト
大抵宋ノ取ノ積リハ一人二日食二升トキコユ。

○朱子大全集十六卷奏狀ニ大人一斗五升
小兒ハ七升五合是為半月之糧ト云ヘリ。是ニ
テハ大人一日之食大抵一升トキコユ。

○明以來斗斛ノツモリカワルコトヲキカス。朱子
水。談綺ニツカミテ升トト具ニアリ。餘姚縣ノ
升ハ日本ノ四合ヲ一升トス。是ヲ鄉升ト云。官升ハ
六升當作合當作谷ヲ一升トス。ニカレ在處々オナ

ニカラス。河南ノ升ハ日本ノ八合五夕ヲ一升トス。大ニ五通
用ハ日本ノ五合五夕ホドラ一升トス。黄鐘ノ律ヨリ
出タレ升ハ古今カハルヲナク。日本ノ升ニテ五合六七
夕入トイヘリ。舜水ハ明ノ乱後ニ日本ニ粟リ萬
治二年初テ長崎ニイタル。ニカレハ明以後コノ比
ニテノ法大際コノ通ナルヘシ。田半音見日本ノ一
升ハ今ノ中国ノ二升ハカリトキコユ。

○說郭ノ内明人董穀碧里雜存ニ論穀
ノ下ニ。今米一石ニ里百二十斤正合四鈞為石
之說ト云。一兩十斤百六十斤一斤ノ而モリ

ナレハ百二十斤ハ十九貫二百目ナリ。今米穀五
斗儀ノ重サ大様二十貫目アリ。ニカレハ明ノ
取ノ石ハ今日ノ五斗ニ準ニテカロキヲニルヘシ。
舜水ノ說ト相合ス。

△權衡之古又

○古之衡ノ品。銖兩介鈞石ノ五ツアリ。是ヲ五
權ト云。是モ黃鐘ノ律ヨリオコル。黃鐘ノ律ハ
古ノ尺ニテ九寸空圍九分。ソノ内ニ黍少一千二百粒
ヲ入ル。是ヲ十二ニワリテ其一分ノ里サヲ一銖トス。三
カルニヨリテ千二百粒ノ里サ十二銖ナリ。是ヲ二
ツ合セタル。取ハ二十四銖ナリ。故ニ二十四銖ヲ一兩
トス。ニカレハ黍少ノ子百粒ノ里サヲ一兩トスルナリ。一兩
ヲ十六合セタルヲ介トス。今テ百六拾目一介ト云。是
ニ本ツク。一介ヲ二十合セタルヲ鈞トス。一鈞ヲ四ツア

ハセタルヲ石トス。一石ト云ハ百二十斤ナリ。コノクテ漢書律歷志ニ詳カナリ。此外古ノ量目ニ鎰ト云アリ。鎰ト云アリ。鎰ト云アリ。鎰ト云アリ。參多ト云アリ。鎰ハ六兩也。銑ハ二十兩也。此ニツハ書經周禮等ニ見ユ。多アラハレヌ。ニカレ尾後世ハ斤兩ノ名ハカリ行レテ鈞石ノコトキコヘス。

鎰ニ三說アリ。國語ニハ二十四兩ヲ鎰トス。ト云リ。趙魏カ子而子ノ註ニハ二十兩ト云リ。鄭康成ハ三十兩ト云リ。大樣後世ノ斤ト云ホトク輕、重ニテニナアリト見ヘタリ。

五 權

銖 百黍之重
十累為黍

斤 十六兩

鈞 三十斤

銖ノ說文ニ六銖ト云リ。又八兩爲銖ノ說字彙ニ見ヘタリ。畢竟見物ノ細カナルヲ銖銖ト云カラハ。六銖ノ說宜カルヘシ。參多ハ銖ヲ十二ワリタノモノナリ。関元錢一文ノ重サニ銖四參ト云。二十四銖ヲ十分ニスルノ一ナリ。參多ハ累ノ字ト同ニ參多ニ作ルハアヤナリナリ。

兩十本 斤百六十本 鈞四貫八百目

石十九貫二百目

○戰國秦漢ノ取又幾金ト云フアリ。漢ノ惠帝ノ取二將軍ニ四十金ヲ賜ニ千石ニ二十金ヲ賜フ。鄭氏曰四十金ハ四十斤ノ金也。トニカハ一金ト云ハ即一斤トナリ。ソノ内漢ノ取ニ黃金ト云トタリ。金ト云ト差別アリ。黃金ト云ハスガニ金ヲ賜タリ。金ト云ハ錢ヲ賜ス。ソノ積リ黃金一斤アタヒ三錢十貫ヲ賜フナリ。晉灼曰言黃金真金也。ト云ニ黃金謂錢也。漢書曰食貨志曰。

黃金一斤直錢萬ト是ナリ。

○隋ノ開皇ノ取ニ古秤三斤ヲ以テ一斤トス。大業中ニ又古秤ニ復ス。六朝ヨリニテ後斤兩ノ各力ク九コトナク三元。次第ニ重クナリ。唐ノ時ニ及ヒテハ三倍ノ重ナニ至ル。程氏演敏系露云。通典叙六朝賦稅而論其總曰。其度又三升當今一升。秤則三兩當今一兩。尺則一尺二寸當今一尺。注云。唐取一尺北六朝制一尺二寸也。當今謂即時蓋當估之取也トコレナリ。

○唐ノ取一兩ト云ハ。後世十本ヲ一兩ト云ト田共ナリ。

一十三。開元通寶ノ錢ヲ鑄ル。二十錢ヲ積テ
重サ一兩トス。今日開元ノ古錢多アリ。年代久
遠ナルヲナレバ少々損弊スルコト有ヘケレバ大様
重サ一錢ハカリアリ。ニカレハ一兩ハ今ノ十兩ニ相
準ス。

唐ヨリ己前二兩ノ小ワリヲ銖トス。錢トス
コトナシ。開元錢十文ヲ一兩ノ重サニ定メラレテ
ヨリ。金銀ノ量目銅錢一文ノ重サニアタルヲ一
錢トス。ニカレハ日量目二錢トス。ハ開元ヨリオコ
リタルコトニテ。唐ヨリ前ハコレ十五。ニカレハ唐ノ太

宗ノ取。魏徵等宰相タル取。二斗米三四錢云
ハ。銅錢三四文トナリ。金銀ノ事ニアラス。其後
宋ノ時ヨリ金銀ヲ幾錢トス。

○唐ノ取ノ衡又黍ヨリ積ハリ出ス。唐令ニ云。秤
權衡以秬黍中者百黍之重為銖。二十
四銖為兩。二兩為太。兩一兩十六兩為斤。コレニ
ヨリテミレハ唐ノ秤モ漢ノ取ト異ナレバナク。百
黍ヲ銖トス。元二十四銖ヲ兩トス。ルヲハ同キコト
ナリ。然レ一兩已上ハ三倍ニテ大兩トス。ルヲ漢ニ
コトナリ。ニカレハ二通典開元通寶每十錢

重サ一兩上下二注ニテ日毎兩二十四銖則錢
重サ二銖已上古秤比今秤三之一也。則今錢
為古秤之七銖以上古五銖則加里二
銖是ニヨレハ一銖トモモ古ヨリハ三倍ト見
ヘタリ。然レ在忝ヲ以テ積リイダニテ百粒ヲ一
銖トスルコトハ漢書トモニカクフ十三異同アル
ヘカラス。ニカルニクニニニ倍スルコト是ヲ疑フ
ベシ。

本朝之制 凡權衡二十四銖為兩三兩為
大兩一兩十六兩為斤。

右權衡ノ令ニ載ル所如此全ク唐ノ制ニ
ヨル。美我解云。以矩忝中者百忝重為銖
二十四銖為兩トコレヨリ積リ出ニテ斤ニイタリ。
大小二等アリ。

○雜令云。凡度地量銀穀者皆用天此外官
私悉用小者。分サハ度量衡トモニ二様アリテ
地ヲハカルノ尺銀銅ヲハカルノ權衡。穀ヲハカル自量
ニテ大ナルヲ用テ。其餘ハ小者ヲ用テナリ。

○本草綱目序例ニ陶隱居各医別錄合藥
分劑法則ヲ引テ云。古秤惟有銖兩而

無分名今則以十黍為一銖六銖為一分四分
為一兩十六兩為一斤雖有子穀拒黍之制
從來均之已依之用之注二果曰六銖為
一分即二錢半也二十四銖為一兩古云三兩
即今之一兩云二兩即今之六錢半也李昉
珍曰替疑初吐絲曰忽十忽曰絲十絲曰毫
四釐曰綮音墨十釐曰分四綮曰字二錢
半也十綮曰銖四分也四字曰錢十分也
六銖曰一分去聲二錢半也四分曰兩二
十四銖也八兩曰鎰曰斤二十四兩曰鎰一
斤半也准官秤十二兩三十斤曰鈞四鈞
曰石一百二十斤也。古之一兩今用二錢可
也。

○字彙糸系与田系同。前漢律歷志。權輕
重不失黍。糸系應劭曰。十黍為一糸。十
糸為一銖。又曰十絲曰一糸。

銖兩斤鈞石八古之量名十リ。分ト云錢
ト云。字ト云ハ後世銅錢ノモリナリ。時珍
カ説ハコノニツヲ折合テアツモリタケモノナ
リ。陶隱居カ説ニ十黍ヲ一銖ト云糸

ノ字アヤリナリ。一銖八百黍ナリ。是ハ
糸ノ字ナリヘシ。

宋以未明ニテ斤兩ノ法サノミカハル古又ヲキ
カス。其内後世ニ金ト云ハ上代漢ノ取ニ金
ト云ト太ニ同ニカラス。方密山之通雅ニ云古一
金以ニ斤一制幣。虫未^レ必^レ買^レ里一介然
定有定形如今之錠。又曰後世分兩漸
改錠有大小相沿遂以一兩為ニ金至六ト
么リ。古ノ一金ハ上ニ半九通リ一介ノ里サノ
金ナリ。後世ノ所謂一金ハ十錢一兩ヲ一

金ト云コト是ニテニルヘシ。金目十ナ又明人ノ話本ニ
相案^レ敬^レ馬^レ奇^レニ木子生ト云モノアリテ^{カリ}賃^レ房^レ租^レ
錢^セヲ買^レコト毎年四金共ニ。二年ノ價ヲ欠
ク。賈^レ秀^レオト云モノアリ。豪家依ニニテ。呈^レ我^レヲ始ム
モノナリ。金十二兩ヲ以テ價フト么リ。四金ヲ三年
ナレハ十二金ナリ。是ヲ十二兩ニテ價ヒカヘス寸ハ後
世明朝ナク一金ト云ハ金十錢タ九コトアキラ
カナリ。

呂字箋云史平准書秦以ニ鎰為ニ金漢
以一斤為ニ金至近世僅以二十四銖為ニ金是ニ

テ秦漢ノ世一金ト後世ノ一金トノハカリニルヘシ。近
世ト云ハ唐ノ比ヨリ明清マテノ間十錢目ヲ一
金ト云ナリ。

○宋ノ太宗ノ取ニ又真草行三跡御書ノ
淳化通寶ノ錢ヲ以テ較定ニ元二十四百
文ヲ十五介トタテ一秤ノ則トス。コノ文又通考
ニ見ヘタリ。淳化錢一錢ノ重サニ銖四糸。開
元ト相準ス。十錢ヲ一兩トスル積リナリ。コノ
銖二十四百ヲ十五介トスル寸ハ。今ノ百六拾
目一介ナリ。シカハ唐宋已來ノ斤兩今ノ自量

目トコトナルコトナキフニルヘシ。淳化ノ錢今ノ世多ク
アリ。藥劑ヲハカリ制度ヲ講求スルコノ錢尤
珍トスヘシ。

宋ノ太宗ノ淳化三年ニ内藏庫使劉蒙正
劉承珪ニ詔ニテ。法物ヲ制セシム。今ノ五分秤
ノハニテリナリ。又一錢ノ重サヲ以テ物ヲハカリ一分
厘ト云モコノ取ヨリオコレリ。是ヨリサキニ大府寺
白銅式フニトス一錢ヨリ十介マテ五十一アリ。輕重ノ
リナキニヨリテ。コノ取ニ二秤ヲ作ヌル。文獻通考
ニ以取厘參造ニ錢半及一兩等ノ二秤各懸三

毫以星準之。去リ一錢半ノ秤ハ鍾ノ里サ六
分一厘ヨリモリ出ニテ十五分アリ。初毫中毫
未毫アリ。一兩ノ秤ハ鍾ノ里サ六錢參系ヨリモリ
出ニテ初毫ニ二十四銖アリ。銖ノ下ニ又一星ヲ
ヲ出ス。一星五參ニアタル。中毫ニ十二銖アリ。
五錢ノ里サナリ。銖コトニ五星一星ニ參ニアタル。
未毫六銖アリ。銖毎二十星一星一參ニアタル。
其詳カカラフ本書ヨリ見サナリ。

分。分厘ノ名ハモト尺度ノ名ニニテ曰里目ノ名ニ
アラス。一寸ヲ十ニワリタルヲ一分ト云。一分ヲ十ニ
ワリタルヲ一分厘ト云。此本義裁ナリ。且里目ノ名ト
スルヲハ是モ宋ノ太宗ノ取ノ制ヨリオコル。上
ニ舉ル通。ソカミ秤ニ品ヲ作りテ。一兩ノ秤ハ
一參ヨリツモリ出ニテ何銖何兩トカソフ。一錢
半ノ秤ハ一分厘ヨリツモリ出ニテ何分何錢ト
カソフ。所謂以分厘參造ト云コレナリ。是ヨリ
分厘厘ノ名遂ニ量目ノコトニナル。

又按スルニ權ノ字先儒ノ解ニ曰。權ハ稱錘也。
稱物輕重里而往來以取中者也。ト云。子
離事篇ニ見ヘタル。是ハ今ノ秤ノ一箇ノオモ

リヲ前合セアトヘヨセテ物ノ輕重ヲニルヲナリ。
然レ宅是ハ宋ノ太宗ノ取ニ劉蒙正カ初テコシ
ラヘタルヲニテ。古ヘノ權ト云モハカクノコトクナラスコ
ノ義裁サキニ文獻通考ヲ岑テ精クアラワセリ。
古ハ權ニ五等ノ品アリテ。銖兩斤鈞石ト云。猶
外合升斗斛ノ五等有カコトニ。故ニコレヲ五權
ト云。ゴノ權ヲ以テ物ノ重サトツリ合セテ之ヲカ
ル。今時天平ノ法。勢ノ如ニ。漢書律歷志ニ
云。權ヲ物鈞而生衡ト云。而康カ註ニ云。錘
ト云。物均。吸稱。適停。則衡平也。ト是ニテ

ニルヘニソノ内法馬ハ盤ニ盛リテ是ヲハカリ。
權ハ秤ノ錘ト云。繩ヲ以テ鈞リ衡ニカク
ルナリ。故ニ權ハ孔アリ。漢書ヲ考ルニルヘニ。秤
又別ニ權字考アリ。是ヲ詳ニス。高麗律。隨ニ
唐人權衡ノ詩アリ。是ノハカリノ様ニキコユ。蘓
老泉衡論序云。衡之有刻也。於此為銖。於
此為石。求之而不得。曰是非善衡焉。可也。曰權
罪者非也。ニカレハ古モ衡ニハソレノ刻ハアリト見ヘ
タリ。只權ヲイクモコニラステ。五權ト云。後世ノ秤
秤ノ權一ツニテ往來スルカコトクナラサルノ事。

古ハ律度量衡ヲ並稱シテ聖王ノ治ハニテニコ
レヲ正ス。然在後世ニ六律コトヲ重セス。法令ノ書
ニモ貝ニアラハサス。コト又其古又ヲ諳セサルニヨリ度
量衡ノ古又ハアリ。古今ノ沿革ヲアラハスコト右ノ
コトニシカレニ古ハ度短ク且里小ク。衡カロシ。後世
ニイタレニ及テ次第ニ度長ク且里太ク。衡オモシ。
ヨリテオモフ。右ハ古又簡ニ物少シ。エハ少ツク
ハカリテ事タレ。世代漸變スルニシタカヒテ。右又イ
タツカワシク。物多シ。ソレ故少ツクハカリテ事タレ。サ
ルニヨリテ。度量衡ノモリモ次第ニ多ナリ。

ナリ。度ノ古又ハ周尺ノ説アレ。且里衡ノモリ三
代ノ法詳カナラス。杜氏通典。高田取。唐ノ取ノ
量衡ハ古ニ三倍スト云リ。ソク古トサス。時代ハ漢
ヨリ六朝ノ比マテ古又ヲイヘリ。其内衡ノ經皇
ハ開元錢ノ重サ一錢ト云寸ハ。本朝今日ノ
法ト甚カワルナリ。然ハ漢ノ取ノ一兩ハ今日
ノ十兩一兩ノ三分ニ准ナスヘシ。且里ノ大小ハ今日
日本ノ法甚フトシ。大様ニコレヲ考ルニ。漢ノ取
ノ一升ハ今日ノ一合ニ滿ス。唐宋ノ取ノ一升ハ今日ノ
三合ノ間ナリ。明ノ取ノ一升ハ今日ノ四合餘ト

見ヘタリ。谷上ニアラハス。罽毘見度ハ古ニ較レ
八。今ノ尺ハ古ヘノ二分一ホト長ニ。衡ハ漢ノ時分ニ
較レハ三倍ノ餘フト。且里ハ今ノツモリ漢ノ時
二十倍ニニアリアリ。

△布帛端匹之古又

布帛二端一匹ト云古又古ヘヨリ。ソノ各アリ。字
彙ニ曰。布帛四丈為匹。六書正譌ヲ引テ曰。
匹曰四丈。則ハ端故。从儿象束帛之形。借為
匹。偶字又端ノ字。註ニ云。布帛曰端。杜預曰。
二丈為一端。二端為兩。所謂足也。禮記雜記
下納幣一束。束五兩。兩五尋。鄭玄註云。納
幣謂昏納徵也。十箇為束。貴成數。兩
々者合其卷。是謂五兩。八尺曰尋。五兩五尋
則每卷二丈也。今是則四十尺。謂之匹。猶匹

偶之云歟。

左傳昭公廿六年申豐豆從女賈以幣錦二兩縛一如瑱。杜氏註曰二丈為二端二端為二兩所謂匹也。二兩二匹。

○漢書食貨志云周立九府圜法下云。布帛廣二尺二寸為幅。長四丈為匹。上代布帛八。周ヨリ漢ノ時分テ八。コノ通ト見ヘク。

○北魏ノ取舊制ニ人間取織絹布皆幅ノ廣二尺二寸。長四十尺為一疋。六十尺為一端。後乃漸至濫惡不依尺度。孝文帝ノ取。嚴ニシテ制セラレテ。前式ノ通ニ準セラレ。通典賦稅内ニ是ヲノス。

○唐律ニ云。諸造器用之物。及縮布之屬。有行濫不牢謂之行不真謂之濫短狹而賣者。各杖六十。疏議曰。短狹謂縮疋不充。四十尺布端不充。五十尺幅闊不充。一尺八寸之屬。唐ノ時布帛ハ、短長ノ度カクコトニ。北魏ノ法ニヨリテヤ、損益アリ。ニカレ疋縮ニ六疋ト云。布ニ六端ト云。コトハカハル。右又十三。

○杜氏通典云。准武德二年ノ制云。其絹
絕為匹布為端綿為屯絲為約麻為
緜。令ニ準スルニ云布帛皆闊尺八寸長四
丈為足。布五丈為端綿六兩為屯。絲五兩
為約。麻三斤為緜。是又上ノ通上同キコトナリ。
ニカレハ唐ノ取布帛尺二八八尺八寸ニテ。布ハ
五丈ヲ一端トシ。帛ハ四丈ヲ一匹トスルコトニハ三
本朝之制 凡絹絕羨濃絶長五丈二尺
廣二尺二寸為足。布長五丈二尺。廣二尺四
寸為端。望^{モウ}陀^タ布五丈二尺。廣二尺八寸為端。

絲十六兩為約。綿三斤為屯。

右ノ制度ハ賦役令ニ載ル文ニヨリテコレヲ
述フ。何モ唐ニ準ニテ増損アリ。唐ノ法ヨ
リハ布帛尺二幅ヒロク長長三。絲一約。
綿一屯ト云モ。唐ヨリ八里目才モ三。

○拾芥抄ニ云。和銅七年符
絹絶六丈為足。調布四尺二寸為端。
庸布二丈八尺為端。商布二丈五尺為端。
或二丈六尺云。

右ノ寸法令ニ載ル所ト同カラス。令ハ文武

天皇大寶年中ニ定メラレ。和銅ハ文武ノ次
元明天皇ノ年号十六。令ノ法ヲアラタメラルト
見ヘタリ。令ニ準スルハ縮ノ匹甚長ク。布ノ
端ヤ短シ。

端足ノ古又前ニ舉ル通ニテ。布帛ニ通ニテ一端
ヲニツ合タルヲ匹ト云。杜氏左傳ノ註アキニカチ
リ。又小尔雅ニ云。倍伏謂之端。倍端謂之
兩。兩ハ即足ナリ。然レハ四丈ヲ匹ト云テ。其
半ヲ端ト云コト。古ノ法ナリ。ニカルニ唐ノ時ニ
布ニ端ト云。帛ニ匹ト云。ウケタルノハ當時ノ

制ト見ヘタリ。本朝ノ古ヘモ亦是ニヨリテ。法制
ヲ立ラレタルモノナリ。延喜式等ニモコノ名称
ハカサラス。ガリソメニモ。布ニ足ト云。縮ニ端云
フナシ。ニカルニハ今夕世ハ中国ノ古制ノ通ニ
テ。布帛木綿ニ通ニテ。一匹ノ半ヲ端云。
イツレノ比ヨリカクシコトクナルヲニラス。博古ノ
人考正スヘシ。又中国モ後世ハ唐トハコトナルト見ヘ
タリ。合運ニ實見文五年ノ秋縮布ニ丈置ニ丈ハ尺トアリ。
一端ノ長サト見ヘタリ。

○宋ノ太祖ノ顯德三年ニ勅アリテ。布帛ノハ長
サヲ定メラル。コレヨリ前ノ旧制ニハ織造ノ絶細

絹布ノ幅ヒロサニ尺ナリ。来年ヨリハ並ニ三尺
五寸ニ及フヤフニ命アリ。其納官ノ紬絹ハ旧ヨリ
ニ長サ四十二尺ト定ムラル。カレハ絹布尺ニハ一尺五
寸ニ長サ四丈ニ尺ナリ。洪容齊隋筆ニ今ノ稅
絹ノ尺度此ニ本ツクト云リ。宋朝布帛ノ尺
コレニテニルハシ。

○宋謝察徵筭經

四 四丈令
無定制

端 五丈令
亦不一

此書說鄒ニ在リ。宋ノ制又前代トカハリテ端
足同キフニテ替アリ。二端ヲ匹トスルニアラス。

△姓氏之古夏

唐虞ヨリ前ハハルカニニテ徵十三。堯舜ノ取契
ト云。棄ト云。禹ト云。皋陶ト云。唯名ヲ以相呼テ。
姓氏若字ノワカフヘキナシ。シカレモ稷ハ姓。姬契姓。
子ト云リ。○ソノカニ姓ハカレモ後世ノエトリ連子コ
レヲ云フヲキカス。夏殷ノ取ヨリ仲君云。傳
稅ト云。其姓ナルカ氏ナルカラ詳カニセス。亦字
有フヲキカス。周ヨリニテ後姓氏名字ノ
別アリテ。死ニテ又謚ト云コトアリ。後世ニテ
コレニヨリ從フテ。唐宋以來又別号ヲ行第

等ヲ以テ人ヲ稱スルヲ起レリ。

○姓ト氏ト古ハ差別アリテ。秦漢以來
通用ニテワカナシ。左傳隱公八年。魯
大夫衆仲曰。天子建德。因生以賜姓。昨
之土。而命之氏。諸侯以字為諡。因以
為族。官有世功。則有官。族邑亦如此
ト云リ。是ニテ姓氏族ノ差別アキラカ
リ。タトヘハ舜ハ媯。汭ニ生ル故ニ姓ヲ賜フ
テ媯ト云。其外夏ハ姁姓。殷ハ子姓。周
ハ姬姓。諸侯ハ齊ハ姜。秦ハ嬴。楚ハ

芑ト云カコトキ。昔日姓ナリ。舜ハ陳ニ封セラレ
ニヨリテ。氏ヲ命ニテ陳氏ト云。是皆天子ヨリ
賜フコトナリ。諸侯ハ姓ヲ賜ヒ土ヲ昨カケフルコト
ナラサルニヨリテ。氏ヲ賜フ。其内ニ字アリ。諡ア
リ。官アリ。邑アリ。魯ノ公子展カ子孫ヲ展
氏トシ。鄭ノ子罕カ子孫ヲ罕氏トシ。子國カ子
孫ヲ國氏トスルカコトキ。是先祖ノ字ヲ以テ氏
トスルナリ。其取ノ例。祖父ノ字ヲ取コトナリ。
又宋ノ載公ノ子孫ヲ載族トシ。桓公ノ子
孫ヲ桓族トスルカコトキハ。先人ノ諡ヲ以テ族

トスルナリ。司空司馬ノトキハ官ノ名ヲ取テ族
トスルナリ。南宮北宮東門西門ノトキハ旧邑
ノ稱ヲ取テ族トスルナリ。コノ四ノモノハ諸侯ノタ
マフコトニテ。カククコトク氏ト族トノ別アリトモ
畢竟皆氏ナリ。

當取ノ人姓ト氏トアリ。タトヘハ鄙ノ國參氏ヲ
云ハ國氏ナリ。姓ヲ云ヘハ姫姓ナリ。宋ノ桓魋
氏ヲ云ハ桓氏ナリ。姓ヲ云ハ子古其外モ人々ツ
ノワケ明ナレハ三ニカレモ姓ヲ以テ人ヲ稱スルコ
トナシ。唯婦人ハ伯姫季姫ハ字ニ付テ稱ス。

文姜戴嬭ハ謚ニ付テ稱ス。三十姓ナリ。周公
召公ヲ姫且姫奭ト云カコトキハ。後世ヨリ稱三
タレテ當時ノ名ニアラス。

○秦漢コノカタ改メテ姓氏ヲ賜フコトナシ。偶其
コトアレモ定リタレ法ニアラス。コレヨリ後姓ト氏
ト混ニテ相通用ス。タトヘハ漢高祖ヲ姓劉
氏ト云カコトキ。劉ハ本氏ナレモ是ヲ姓ト記シ
又劉氏ト云。後世ニテ此通りナリ。大抵カクコト
キコトハモトハ其分チアレモ。後世コ通用ニテ云
ツキタレ上ハサレ正スヘキニアラスト云コトナリ。

本朝之制 姓氏有三別有皇族有神族

有蕃族別 本朝ノ上世モ又姓氏ノコトア

ラハス。其後安曇大伴等ノ姓見ヘ又源

平藤橘菅江紀清等ノ別成盛ニナリ。姓

氏録拾芥抄等ニ詳カナリ。其内ニ皇別神

別蕃別ノウケアル。皇別ト云ハ天子ノ御子孫

ヨリ分レタリ。源氏。平氏。紀氏。ノコトキ是ナリ。

神別ト云ハ上世神明ノ胃藤氏。菅氏。江氏

ノコトキ是ナリ。蕃別トハ漢唐ニ韓等ヨリ

来ル人ノ子孫。秦氏。多々良氏。トキ是ナリ。

此三別ニテ日本ノ姓氏スヘクラスト云コトナリ。漢
土ノ姓譜カクコトクニ差別ニタレコト未見當
タラス。

本朝姓氏三別之圖

皇別

神別

蕃別

本朝姓ト氏ト分ツコト古ニ見ヘス。ニカレモ源平藤橘
等ノ氏ヲ姓トス。今ノ歟謂ナリヲ名ト云ハ定リタルコトニ
元。古ヨリ令式ニル所。ソク文明自ナリ。公式令ニ位
臣姓名トアルハ。平兼盛源重之トスルスカコトキ。是
即姓ト名ナリ。ナラ漢土ノ人ノ韓信張良ト云ニ相
準ス。ニカレハ秦漢以來ノ姓ト云ヲ。日本ノ姓ト云
名ト云モノヲ。日本ノナリトスルニオイテ。別義
十三。

今久通ニテ云ハ源平藤橘ハ姓ナリ。是利北
條齊藤樹等コトキハ姓ヨリ分レテ氏ナリ

ト云。其故某姓某氏ト紀ス。ニカレモ古カクノコト
クニ分ツコトハ十三。姓氏録ニハ皆姓ヲ載タレ。其
書ヲ名ツケテ姓氏録ト云。源家平家ヲ又源氏
平氏ト云。然レハ姓ヲ通ニテ氏ト云ヘシ。足利北
條等ノ称号ヲ氏ト云コトハ古書ニハ見ヘス。

○今ノ歟謂称号ヲ氏ト云コト。古法ニアラス。古ヨ
リ王朝ノ官人。或ハ采邑ノ名ヲトリ。或ハ所居ノ
名ヲトリテコレヲ称ス。是ヲ姓トモ氏ト云フナリ
士庶ノ称號モカクノコトニ。ニカレモ今日姓氏ノ別
アキナカナラス。或ハ古ノ制今ハ称号トナリ。或

称号ハアリテ姓ノニレサルモアリ。況ヤ今ノ所謂
姓ト云モノハ源平藤橘等ノ十數姓ニ過キ
ス。然レハ士庶ノ間紀傳行狀ヲニルスニハ今テノ
稱號ヲ以テ姓某氏ト書テ別義ナキコト
ナリ。本朝ノ台法ニアラスト云ヘテ暫[○]推宜
ニ從フヘシ。今日ノ称号ハ今ノ人ノ姓ナリ。中国
漢ヨリヨカク姓劉氏ト稱シ。姓孔氏ト稱ス
ルモ同^キ例ナリ。

○又本朝ニ古ヨリアト云コトアリ。朝臣真人
宿^子稱^シ忌^シ寸^キ縣^キ主^トア^タタ^リアリ。中国ニハコノ
古又見ヘス。

本朝ニテ所ニヨリテキラハニキフアリ。公式令ノ
内ニ中務大輔位臣姓名トアルハコノ姓ハ源平
藤橘ノ類ナリ。又同令ニ凡^レ授位任官ノ自
喚辭ニ三位以上先名後姓注云。假令喚云
奏萬^ハ呂^カ宿^ス祢^子ノ類。又五位先姓後名注
云喚云奏天宿祢萬呂ノ類也。コノ姓ハ尸ノ夏
ナリ。朝臣真人ノ類ヲサニテイフ。又処ニヨリテ
尸ヲ氏ト云フ。国史ニ見ヘタリ。ニカレハ尸ヲ吸ニ
因テ姓尾氏ト云ナリ。姓氏ノ外ニ尸ニアタル文

字十三。

元恭天皇ノ收。群卿百寮或ハ帝皇ノ
裔ト稱ニ。或ハ天降ノ異ヲ稱ニ。元。氏族ノ別ソ
ノ實ヲ知リカクニ。是ニヨリテ諸氏姓人ヲ三
テ沐浴齋戒ニテ盟ヲナサシム。是ヨリ氏
姓自定リテ。更無詐人トシテ。天武天
皇十三年冬十月詔曰。更改諸氏之族
姓。作八邑之姓。以混天下。萬姓トイフ
トモ。國史ニ詳カナリ。

本

朝 八 邑 姓 圖

- 一曰真人
- 二曰宿禰
- 三曰宿禰
- 四曰忌寸又作神養吉
- 五曰道師
- 六曰臣オムコ
- 七曰連ムスヒ
- 八曰稻置イヌヅメ

此古又ト世ヨリコレアリ。此收ニハニルニ非ス。與時
ニ次第ヲ立テ高下ヲ分ケテ玉フナルハニ。コノ
外拾芥抄ニノスル所又十八氏アリ。

王公首造直縣主
村主神主使主人伊義

吉史勝部氏 伊土口阿祇
祭君倉人

通ニテ之ヲ考ルニ本戸ハ上世ノ官職ノ名
ナリ宇摩志麻乎治命天瑞ヲ献スルヲ以
テ近宿ニ侍ラシム。足^{ソコ}尼ト称ス。又宿祢ト
云。ソノ裔孫ヲ布三足尼トシ淡宿祢トス。
又晉稻置等ノ名ハ日本記ニ出テ縣郡
ノ令長ノ名ナリ。ソレヨリ後年代ツモリ
テ官職ノ外ニス。一種ノ称トナリテ。氏族
ノ由賤ノ序九ナルヘシ。

○天武天皇十三年。大三輪君大春曰臣
物部連等凡五十二氏賜姓曰朝臣ト
云。ニカレハ戸モ段々ニス。ミテイヤニキ戸。
虫貝キ戸ニホルナリ。但ソノ族ニ賜フナハ一
族三十ソノ戸ヲ称スルナリ。

△後字之古又

上世之人。父々名ハカリニニテ。字ナク天子ニテ
モ舞ト云。禹ト云。啓ト云。湯ト称ニテ。別稱ナ
シ。ニカレト湯ノコトハニ予小子履ト云フ。ニカレ
ハ履ハ名ニニテ湯ト云ハ後世ノ謚ロクノ類ト
見ヘタリ。周ノ世ニ成リテ禮文全ク備リテ字
謚等オコレリ。禮記ニ云。男子二十冠而字。
檀弓ニ云。幼名冠字五十以伯仲死謚。周
道也ト是ナリ。周ノ般ニハ子生テ二目トニ名
ヲ付テ年二十歳ニナリテ元服ヲ加ヘ字

ヲ付テ。官爵アルモノハ死後ニ諡ヲ賜フナ
リ。秦漢コノカタ大様コト通リナリ。ニカレ
漢ヨリコノカタ人ニヨリテ又小名トイフモノ
アリ。司馬相如ヲ夫子ト云。曹操ヲ阿瞞ト
云カコトシ。

○名字ト云ハタトハ。顔子ナレハ名ヲ回ト云。字
ヲ子淵ト云。子路ナレハ名ヲ由ト云。字ヲ子路ト
云。名ト字トハ必^レ義理ノ縁ヲ取ル。淵ハメク
ル意アリ。路ハヨル意アリ。何モ比^レ通リナリ。
後世ニハ字又表字ト云。カクコトク名ト字ト

ニツ付分ケハ人ノ名ヲサニアテハ言アラハス。先ノ
無礼ナルユヘニ先ノ名ヲ云ハス。字ヲ呼フ。其
為ニ字ヲ付コトナリ。故ニ人ヲ称スルニハ臣子門
人ノ多クモ。ウカ目下ナルモノハ直ニ先ノ名ヲ称ス。
夫子ノコトハニ定リテ。鯉也。回也。由也。賜也。トノ玉
フノ類。マタウカ尊フトコロ人ハ先ノ名ヲ呼コトヲ
ハカリテ。字ヲ呼フナリ。論語ニ子路。子貢ト称
スル。孔氏ノ門人先輩ヲ推尊テ称セラルナリ。
又イヨク尊テハ子ト称ス。孔子。孟子ト云カ
コトキ是ナリ。後世ニナリテ。字ヲ呼コトモハカリ

多キヤウニナリ。或官ヲ称ニ。或公号ヲ称スルノ類。サマクアリ。

○周ヨリコノカタ。諱ヲ避ルノ礼アリテ。君父名ヲサケテイハス。公儀ノ諱ヲ公諱キ云。家ノ諱ヲ私諱ト云。ニカレテ文王名昌ニテ書曰。経ノ洪範ニ因其昌ト云。武王ノ名ハ發ニテ詩ニ經ニ駿オホキニ發爾私ト云。厲王ノ名ハ胡ニテ詩ニ胡不相畏ト云フコトハアリ。魏ノ王肅カ議。是ヲ引ク。通典ハニアラケル。ニカレハソクカニ諱ノ禮後世ノコトクニ嚴ニ重ナラスト見ヘタリ。

○周ノ取又所ニヨリテ諱ヲ避サルノ法アリ。曲禮ニ云。不諱嫌名ニ名不偏諱。詩書教。學子臨文不諱。トコノ三通リノコトハイテサレ。嫌名トハ文字ハカレテ音ノ同キヲニテ下キラハニキラ云。鄭玄謂。嫌。謂音聲相近。若禹与雨。丘与区也。王肅曰。音相近者也。二名ト云ハ二字名ナリ。孔子母名徵在。言徵不。言在。カコトキ是ナリ。是ハ論語文。献不足徵也ト云。不在。茲乎。崇。コトハアルニヨリテイヘリ。詩書教。學不諱トハ書物ニ對ニテハ諱ノ字アリトイ

へ宅サケサルナリ。周ノ敗諱ヲ避ノ禮カクノコ
トニ。後世二十リテハ二名嫌名共ニ是ヲ諱ム
ナリ。禮ニヲラス。唐ノ太宗ノ諱世民唐ノ人
ニ字トモニコレヲ諱テ。世門ト云コトヲ代開伝
黎民ヲ物人ト云ノ類多ニ。是二名ヲ二十
カラ諱ムナリ。宋ノ仁宗諱禎。自ノ字ヲ避
テ自觀ヲ正觀ト云。又自ハヲ文正ト云。是嫌
名ヲサク九ナリ。

○又周ノ世ニ諱ノ禮ハ存生ノ内ニハイマス。死後
ニナリテ是ヲ諱ム。又先祖五代スクルトキハイマ
九ナリ。曲禮ニ云。卒哭乃諱。鄭玄曰。敬鬼神
之名也。生者不相避名。衛侯名思。大夫有石
思。君臣同名。春秋不非。又檀弓ニ云。既卒
哭。宰夫執木鐸以命于宮。捨故而諱。
新鄭玄曰。故為高祖之父。當遷者也。
王肅曰。故謂五廟毀者。是ナリ。唐ノ高
宗永徽年中。左僕射于志寧カ奏聞
ニヨリテ古ノ法ニ準ニテ。遠キ先祖遷廟
ノ後ハ諱ヲサケス。宋朝ニ敬弘殷等ハ太
祖ヨリ先ノ諱ナリ。ニカルニ宋ノ一代ノ久ハ何

モ是ヲ諱ムナリ。

本朝之制 名字

本朝上世ノ取タ、名ハカリテ、姓氏假名ノワカ
ツヘキコトナシ。當時久或ハ某ノ命ト云。或ハ彦
ト云或ハト云皆目名ナリ。又狹手彦ト云。比羅夫
云カコトキ是ナリ。少時ニハ漢土ノ文字未渡ラ
サレハ國語ニテ言傳ヘ古字ニテ書傳ヘタルヲ
後代漢字クタリテ後漢字ニテ是ヲウツ
ニ史策ニアラハセリ。モト字ニヨリテ義取ルニ
アラス。其後學問行ヒテ後定リテニ字或

ハ一字ニツクテ字ハ漢文ノ主我ヲ取リ。訓ハ本
國ノ舊語ヲ用テ名トス。今ノ所謂實名是
ナリ。或ハ經書ノ成語ヲ取裁ニ。或ハ古賢ノ
名ヲ慕ヒテ名トス。貫之^{ツラユキ}。敏行。利仁。相如ト云
ノ類アマタナリ。ニカレハ今ノ取謂名乗ト云モハ
中國ノ所謂名ナリ。

○本朝ノ俗。古ヘ定リテ字有古又ヲキカス。紀長
谷雄^{セオ}字ハ寛紀。寛ト云ニ善清母貫字耀
三耀^{ト云}又屋康秀。字ハ琳文琳ト云カコト
ニソカニ通ノ字付法アリト云。ニカレテヲニテ

丑テコレアルニアラス。

○中世已來官アル人ハソノ官ヲ稱ニ又ハ兄弟ノ
次第ニ配ニテ稱スルコトアリ。四郎兵衛。五郎
兵衛ト云ノ類アマタナリ。次第ニコノ稱サカニ
行テ其庶人ノ間平生相呼ニハモツハラコレヲ用
テ人ヨリ我ヲ呼ヒ我ヨリ人ヲ稱ニ上ヨリ下
ヲ呼ヒ下ヨリ上ヲ稱ス。名乗ヲ用ユルヲ甚下レ
ナリ。華人ノ所謂字トハソノコト同カラスト云々。
今日ノ世ニ在リテ平生遍稱スルコトナレハ
ヲニトヲニテ。字トニテ可也。外国ノ人中国

ニ入リテ漢名ヲ付クニ國ノ名ヲ字トスルヲ史
傳ニ多ク見ヘタリ。



制度通考卷之十畢

六十九下

早稲田大学図書館

011888001311